

編集後記：【天気】 投稿論文のご査読依頼。私が論文や短報の編集を担当したときに査読をお願いするメールの表題です。自分の研究に関係する原稿を担当しますので、査読をお願いする専門家の方とは面識があるのが普通です。しかし、近年は分野横断的な研究も多く、全く面識のない先生に査読を依頼しなければならぬことも少なくありません。これまでに医学分野の先生、農業系の研究者、土木系の専門家など気象学会の会員でない方にも査読をお願いした経験があります。このように全く面識のない先生方にも、冒頭に記した表題のメールを突然送らせていただくことになります。ありがたいことに、このような突然の査読依頼に対してもほとんどの方から前向きなお返事を頂戴することができています。

「天気」で査読を行う原稿種別は、解説・論文・短報です。それぞれ2人・2人・1人の専門家による査読を行います。査読意見が分かれた場合や、別の観点から確認してもらいたい場合には、さらに査読者を追加して意見を請うこともあります。また、解説・論文・短報以外の原稿でも、内容の確認を専門家に依頼

することもあります。人それぞれかとは思いますが、査読の作業は、まずは全体を把握するために1回読んでみて、細かな点で間違いがないか確認するために気になる部分をもう1度読み、査読コメントを書いたうえで、その内容の確認のために最後にもう1回読んでみる、ということをやっているものと想像します。このために丸1日費やしたり、場合によっては数日かかったりすることもあるのではないのでしょうか。これらの作業は全てボランティアでやっています。金銭面はもとより研究業績としてもほとんどメリットがないにもかかわらず、いつも快く引き受けていただいていること、本当に頭の下がる思いです。

「天気」では、年最後の号（12号）において、その1年間にお世話になった査読者の皆様のお名前を掲載して読者にお知らせしています。1年間にお世話になる査読者、その数30人から50人。多くの方のサポートがあって「天気」の査読システムが動いていること、あらためて感謝したいと思います。

（青柳曉典）